



今、できることから始めよう

栗原 茂

今、学校では民主的な話し合いの場は少なくなり、トップダウンで物事が決められていく傾向にあります。理解しがたいことが多々あります。

しかし、どのような職場でも教師としてできることはあります。職場の先生と学級の子どものことを話し合うことや授業について分からないことを同僚に聞くこともいいと思います。そして、授業づくりを一緒にやりましょう。初めはどんな授業づくりでもいいのです。背伸びせずに自分達のできる授業づくりをしていきましょう。授業づくりをしていく中で分からないことが出てきます。分からないことを同僚に聞きましょう。サークルや学習会に参加することも勧めます。大切なことは学び始めることであり、学び続けることであり、関わり合うことです。

体育研究同志会の「グループ学習」は、すべての子どもに学力をつけることが土台にあります。「できない子」や「へたな子」をそのままにするのではなく、「分かるようにする」「できるようにする」そして、「友だちと学び合える」ようにすることを目標とした学習方法です。

自分のできることから一歩を踏み出し、同僚とつながりを築く、その始まりの小さな一歩が二歩になり三歩になると信じます。「すべての子どもに基本的な学力を培う」という気持ちを持ち続けることが大切です。

異質協同の「グループ学習」には、人への優しさや共感、主体性、系統的な科学性、文化性等の考え方が網羅されています。子どもたちに体育で何を教えるのか、どんな子どもに育てたいのかという学習内容や目標を明確にし、「グループ学習」に取り組んでみましょう。教師集団の学びや授業実践から授業で大切にしなければならないことが分かってきます。技の系統性やグループの話し合いの仕方、アドバイスの仕方、子ども同士の関わり合い等です。

今月号の特集は、「はじめてみようグループ学習」です。「論考」「実践のひろば」「座談会」を掲載しました。「グループ学習」について様々な視点から執筆者に論じていただきました。読者の方々の授業づくりに活かしていただくことを願っています。

(くりはら しげる／編集部)